

福井県流域環境ネットワーク協議会 第4回河道技術部会 議事概要

日時：平成28年5月16日（月）13：30～15：30

場所：福井河川国道事務所 3階 第2会議室

1 開会

2 主催者あいさつ（福井国道河川事務所 中村所長）

今回第4回の部会は前回の部会で頂いた意見を踏まえつつ、コウノトリを中心とした水辺の多様な生息に配慮した水辺デザインについて再提案し、そのことについて意見を頂きたい。なお、日野川の片粕地区の工事においては今日の部会で検討した内容で、今年度工事着手したい。また、工事着手後のフォローアップについても重要と考えており、引き続きご助言等いただきたい。

3 協議

<福原委員長>

生態系に配慮した水辺デザインという河川のにも技術的にも新しい分野であるので、新しい知見を全国へ発信していけたらと思うので、ご協力お願いします。

本日は、大きく分けて「日野川の湿地創出について」と「環境調査」の2点について議論したい。

（1）河道技術部会 資料説明（日野川の湿地創出について）

事務局より説明

（2）意見交換

<田原委員>

下流開口部がT.P+0.6mになっているということは、河川水位がそれを超えないと水が入ってこない。この湿地で一番増えてほしいコイやフナ、ドジョウの産卵期が4～7月であり、その時期に河川と繋がっていないと湿地の中での繁殖と産卵が起こらない。開口部に一部水路等を下げた形で設けて4～7月の水位を確保した方が良い。

<事務局>

雨が降った時は河川水位が小堤の高さを超えているのでそれではダメか。小堤を下げるとその分干上がりやすくなるのでその辺のバランスが難しい。

<佐川委員>

私も田原委員と同意見であるが、一方で、小堤を下げてしまうと陸と同様にすぐに干上がってしまう恐れがある。また、水位変動が大きいと、水際の植物の定着が困難になる恐れもある。T.P+0.20mの深場の高さをもう少し下げて、親魚も生息できる空間をつくることはできないか。それか、この案でやってみて、機能しないようならさらに掘り下げるといったような形でどうか。

<事務局>

とりあえずこの案でやってみて簡易な堰板などで水位を調整できるようにしてみたい。3月～5月の状況をみて考えたい。

<佐川委員>

水深は浅いと思う。小堤沿いの T.P+0.22 の深場を水深 80 cm程度確保できるようにすることと、平場につくる窪みも水深は 80 cm欲しい。

<佐川委員>

この辺りは堆積傾向にあるのか。

<事務局>

P43, 44 で示しているが、平場から水深 1m だと若干平場上流部で堆積傾向にある。水深 2m だと浸食傾向となる。

<福原委員>

平場は溝形式と窪みとどちらが良いか。

<事務局>

80 cmの深場を作ろうと思うと溝形式では直掘りになって崩れやすいので本数が限られる。平場に窪みを作った方がより自然的なように思われる。

<委員長>

減水深が土質を考慮していないと思う。水田とは土壌が違うので下方浸透量がかなり変わ

ってくるので考慮すべきではないか。

<事務局>

減水深も通常の水田に比べ多く、安全側で考えている。また、河川の水位がおおよそ平場の水位と同程度なのでそれほど浸透量が多くはないのではと考えている。

<松村委員>

平場に作る深場は小堤の深場につなぐようにしておけば、溝でも窪みでもどちらでも良いのではないかと思う。

<佐川委員>

魚的には繋ぐ方が良いと思うが、コウノトリ的にはどうか。繋がっていると水深の深い方へ魚類は逃げてしまい、コウノトリの採餌場としての機能は減少する。

<事務局>

すべての魚が逃げるわけではないと思う。

<奥村委員>

日野川の村国山に同じような個所があり、水位が下がった後、魚が取り残されている箇所がある。

先ほどの減水深について、夏場は気温も高く、日射量も高いので、減水量の分析もできなくはないと思うがどうか。

<事務局>

通常の田んぼの場合でも日減水深は 1 cm程度なのでそれほど下がらないと考えている。また、雨量も考慮していないので、雨が降ればその分水位は回復すると思う。

<吉岡委員>

今年度は片粕地区のおよそ半分を実施予定でよいか。片粕地区でどのくらいの工事期間を予定しているか。

<事務局>

今年ついでにしている予算だとおおよそ 25,000m³ ほど掘削できると考えている。現地に当てはめると青点線か赤点線までできると思われる。今年度は新規のためそれほど予算が付いていないが、予算がつけば片粕エリアで 4～5年でできたらと考えている。

(3) 河道技術部会 資料説明 (環境調査について)

事務局より説明

(4) 意見交換

<奥村委員>

P6 の底生動物の調査だが、5 月の調査は水田からの濁水等もあるのでよく検討してほしい。

<事務局>

一番調査効果のある時期を探って行いたい。場合によっては調査期間ぎりぎりの 3 月の終わり頃になるかもしれない。

<松村委員>

P5 の鳥類調査についてだが、定点調査の方が広範囲に調査可能なので追加していただきたい。また調査時期について、12 月にはすでに狩猟時期になっているのでカモはいなくなってしまう。11 月頃の調査が良いが、冬鳥の調査であれば 3 月頃でも良い。旅鳥の調査であれば 10 月頃が良い。

<福原委員>

調査時期については、それぞれ専門の方の意見を伺いながら進めていただきたい。

<事務局>

調査時期等については個別にご相談させていただきたい。また、現地調査についても同行したいという話もあったので可能な限り調整させていただく。

<佐川委員>

P2 のフィールドサインによる確認は、ラインを設けてやるのか、水域を中心に行うのか。面積当たりどれくらいいるのかがわかる調査が良い。卵塊調査は 6 月では遅い。底生動物は捕獲されたものすべて同定するのが良い。コウノトリのエサ生物として 1 cm 以上の生物がどれくらいいるのか分かると豊岡の採餌環境との比較ができる。

<事務局>

事前調査ではまず希少種がいるかどうかの調査をメインで行いながら、頂いたアドバイスを取り入れて調査したい。

<松村委員>

両生類の調査は5月の産卵期に調査するのが良い。昆虫調査については、コウノトリが好きなバッタの調査であれば9月が良い。

(5) 今後の予定

<事務局>

今日のご意見を基に詳細設計を行い、今年度の出水期明けに工事に入りたい。また、環境調査については、調査時期について各専門の方と調整させていただき、事前の調査結果がまとまるのは1月頃になると思われる。その頃に第5回の技術部会を開催し調査結果と工事の進捗を報告したい。希少種が出た場合は工事前に各専門の方へ確認させていただくかもしれない。工事は10月入ってから着手し、年度末前に完成を予定している。

<福原委員長>

場合によっては各委員に工事の状況を確認してもらう方がいいと思うので検討していただきたい。

<佐川委員>

P11のスケジュールについて、魚類調査は整備後3年間しないのか。整備後すぐ行う方がよい調査結果が出たりするので、1年後くらいに調査できると良い。

<事務局>

モニタリング調査時期については堆積状況等などの状況に応じていつにするかを考えたい。

<福原委員長>

モニタリングの調査時期等について、参考になる資料等があれば事務局へ提供していただきたい。

4 その他

5 閉会あいさつ（福井県土木部河川課小野田参事）

本日は活発な議論を頂きありがとうございます。湿地の創出につきましてはこの形状で10月から工事に着手してまいりたい。試行錯誤しながらできるだけ良いものができるよう進めていきたいのでその都度ご助言等いただきたい。環境調査も同様に進めてまいりたい。また、里山連関部会についてもこのような情報を共有させていただきたいと思っている。

以上